



てん茶園における亜鉛欠乏症対策として 食品添加物を利用した葉面散布技術を開発

— てん茶(抹茶)の安全・安心な生産に貢献します。 —

開発の背景・ニーズ

てん茶園では、窒素肥料の影響で土壌の酸性化が進むため、亜鉛欠乏症が発生し、生育に支障をきたす恐れがあります。

食品加工用のてん茶(抹茶の原料)は、特に安全・安心が重要視されます。そこで、食品添加物として利用されているグルコン酸亜鉛を用いた亜鉛欠乏対策技術を開発に取り組みました。

成果の内容

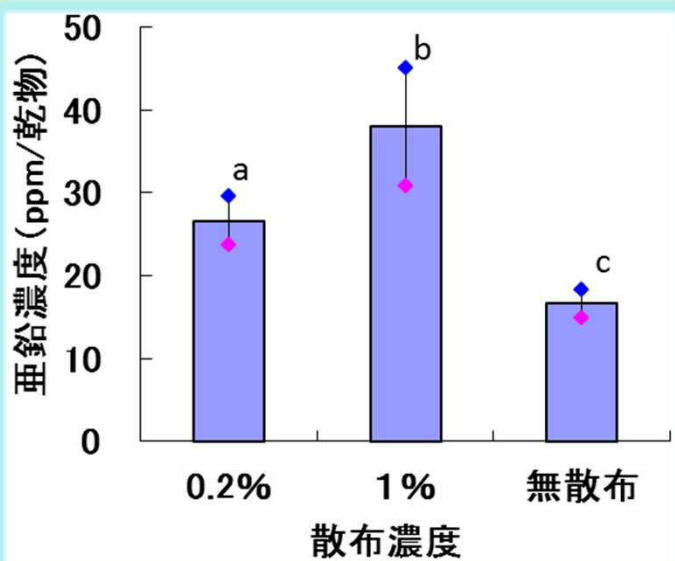
グルコン酸亜鉛の水溶液を茶葉に散布すると、茶葉の亜鉛濃度が無散布に比べ、明らかに増加しました。0.2%の散布濃度でも、茶葉中の亜鉛濃度を10ppm上昇させることができました。

食品添加物であるグルコン酸亜鉛は、茶の亜鉛欠乏対策として、安全で有効な葉面散布剤であることを明らかにしました。



茶葉の亜鉛欠乏症状

葉脈以外の部分が黄変します。茎の伸びが悪く、よじれたようになる場合もあります。葉中濃度が10ppmを下回ると新葉に欠乏症状が発生します。



茶葉に対するグルコン酸亜鉛の葉面散布効果

※10月に各濃度の希釈液を10アール当たり200L、2回茶葉に散布。

愛知県農業への貢献

本県で多く生産されているてん茶の亜鉛欠乏症対策に有効な技術として活用され、てん茶の安定生産に貢献します。

本試験での散布濃度の範囲であれば、薬害は発生しません。